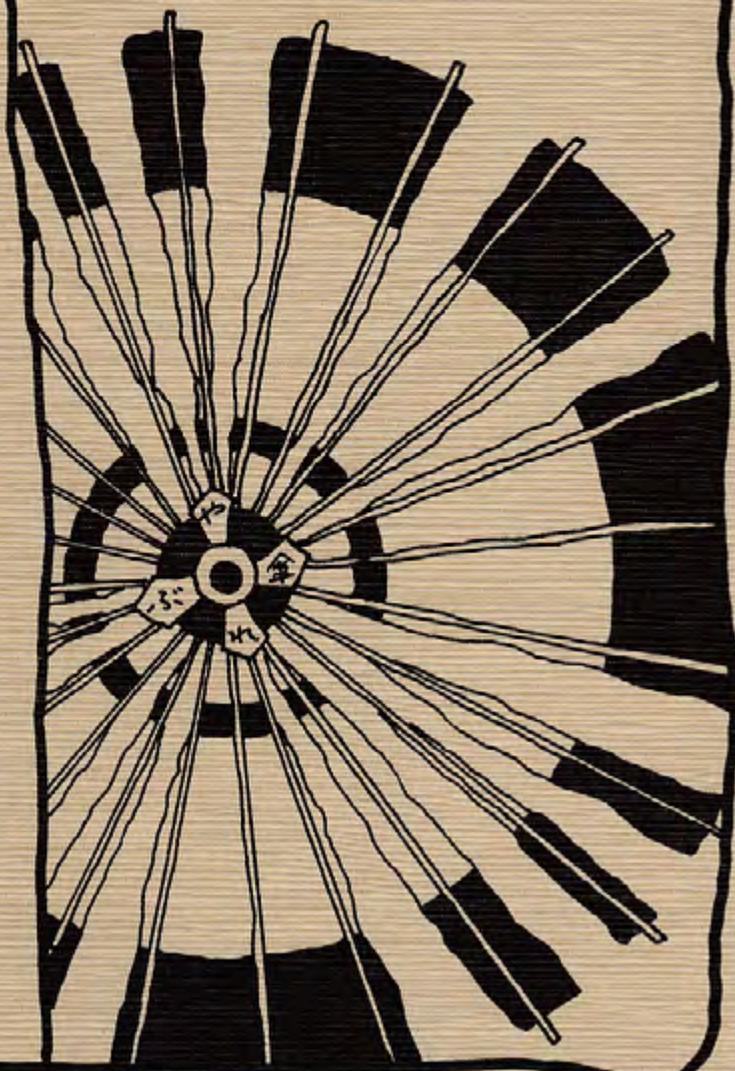


# やぶれ傘



一〇五号

二〇一八年十二月

ただいまの声がどこかに花八つ手 根橋宏次

この家に二坪ほどの菊の庭 大島英昭

塩むすび食ひたる指で食ふ林檎 きくちきみえ

百合の樹のその上にある冬の空 青谷小枝

山の田に小さき稲架の立ちにけり 廣瀬雅男

壁赤きインドカレー屋秋日差 丑久保 勲

処方薬待つ間時雨れて来たりけり 安藤久美子

お蕎麦屋のカレーサンプル冬ぬくし 小山よる

ながめある庭の片隅石路の花 白石正躬

一羽増え八羽の鳩が溜池に 渡邊孝彦

おくんちや旅所の紙垂の風に揺れ 天野美登里

茶の花や空 濠残る館跡 瀬島洒望

黄落へ電車のドアを手で開けて 藤井美晴

十月や一枚硝子磨きこむ 有賀昌子

側道に尾灯つらなる秋の暮 秋山信行

抄 集 句 傘 紀 大 崎 夫 選

秋の蚊を叩けばわが血われを染め 松村光典

雲の端に入り日の名残り冬に入る 齋藤朋子

宮参りの子は泣き通し秋うらら 時田義勝

あたたかき十一月の廻り道 中島和子

都鳥の飛交ふ中を曳航す 野口希代志

椶櫚の実土うつ一度きりの音 武藤節子

秋の宵風呂の温度を一度上げ 森美佐子

プランターの短き畝に大根蒔く 山本久枝

雨あがり山茶花の花葉にこぼれ 湯本正友

無人駅のホームは無人雁渡し 浅嶋 肇

秋晴れや見知らぬ人の会釈受け 安齋正蔵

ポケットに溜まるどんぐり山路来て 奥田温子

無花果を煮てをり電話よく鳴る日 上林富子

校庭の隅に一間ほどの稲架 倉澤節子

雲割れて十五夜の月能登瓦 黒澤次郎

薄雲の先に明るし望の月  
 大滝へ標識のあり赤のまま  
 棒立ちのまま仰ぎけり後の月  
 長き夜ハワイ土産の絵本見る  
 雲の端に入り日の名残り冬に入る  
 日本橋をくぐる舟待つ冬はじめ  
 荒川をカヌーいくつか小六月

齋藤朋子

秋の海写真で綴る旅日記  
 けふの月熊本城に鯨登る  
 城跡や櫓の葉先に流れ星  
 雁渡ししどの風の鐸もや揺れて  
 破れ蓮裏返されてなほ浮ぶ  
 鈴生りや祖父が自慢の百目柿  
 友の名を思ひ出せずに夜長かな

坂本和穂

佐々木あつ子

父母在りてこそ  
園児らの歌でお祝ひ敬老日  
月の雨蠟燭能へいざなはれ  
兄弟で揃ひの半被秋祭  
萩の宿仲間は塗師の父語る  
在所から「ひとめぼれ」てふ今年米  
煙立つ牡蠣小屋並ぶ浜の朝

佐藤稲子

桜島は今日も煙を彼岸花  
坑道の奥に観音冬うらら  
喉ごしの良きロゼワイン初紅葉  
朴落葉山路の茶屋のくるみ餅  
やうやくに安くなりたる大根煮る  
山荘の朽ちたる屋根に積む落葉  
億年の地層のあらは小六月

眞田忠雄

曼珠沙華土手を灯して点々と  
晴れ間みてげんげ種蒔く稲穂田に  
秋の日や曲尺あてて柱立つ  
田の藁に匂ひも束ね十三夜  
蕎麦畑の傍に一叢秋桜  
中庭に三頭揉めり秋の蝶  
げんげ蒔く児についてゆく赤とんぼ

柴崎和男

一口羊羹ぬるりと口に秋晴るる  
シスターのこゑのやはらか秋のミサ  
菊日和猫に髪の毛舐められる  
役員もひとつ歳とり敬老日  
魚屋が筆でさらさら「秋鯖」と  
秋晴やこの塀もまた大使館  
秋夕やけ散歩の犬は愚図りつつ

野 晒 の 大 八 車 鱒 雲  
重 陽 の 神 木 に 手 を 押 し あ て て  
秋 神 楽 鈴 を 鳴 ら し て 舞 ひ に け り  
二 三 本 赤 唐 辛 子 米 び つ に  
名 を 知 ら ぬ 玉 虫 色 の 冬 の 虫  
け ん ち ん を 作 り お き す る 二 日 分  
玉 砂 利 の 形 い ろ い ろ 冬 の 鴟

篠崎志津子

鈴木昌子

ロ ボ ッ ト の カ タ ロ グ 眺 め ゐ る 夜 長  
秋 時 雨 長 谷 の 大 仏 眼 を 伏 せ て  
鹿 児 島 の 土 産 は 秋 の 蔵 出 し 茶  
副 都 心 の あ ち ら こ ち ら に 猫 じ ゃ ら し  
神 無 月 出 雲 へ 向 ふ 寝 台 車  
隣 人 も 出 雲 へ 旅 の 神 無 月  
神 迎 へ 庭 に 帚 の 刷 毛 目 つ け

高橋均

居酒屋は早仕舞ひして台風来  
杉箸の小気味よく割れ秋の宿  
敗荷の池真緑に輝けり  
欠伸して屁をして秋の夜長かな  
深秋のあてなく入りし古本屋  
行く秋の無糖コーヒー飲みにけり  
街の灯を映す舗道や夕時雨

竹内文夫

床の間に折り鶴一羽今朝の秋  
明らかめば山巒に霧たなびけり  
しづけさがまづ降りてきて秋の暮  
月を待つ薄暗がり「夜想曲」  
一筋の月光さして夜行バス  
やや長く湯に漬かりぬる秋の夜  
廃校の跡地に漬かりぬる秋の夜

塚本虚舟  
柚子しぼる美しき指先にほひけり  
薄墨の別離の知らせ思草  
蛇穴に溪流の音はたと止み  
陽の目見し未完の遺作帰り花  
老ゆるとも衿持崩さぬ冬北斗  
神主と巫女笑み交はす神の留守  
差し障りなき話ばかりや日向ぼこ

時田義勝

公園の芝生にテント夏終る  
ひとところ群れ咲く土手の彼岸花  
宮参りの子は泣き通し秋うらら  
部活の子少なくななりて後の月  
広々と発電パネル秋の畑  
木の実投げればりす走り子が走る  
百合の樹の落葉は鳥の舞ふごとく

中島和子

藁を足す菊人形の胸あたり  
晩秋の園にわに奏でるトランペット  
初もみぢ誰にも逢はぬ朝の道  
身に入むや鳩の糞する常夜灯  
飲むといふほどには注がぬ新走り  
小流れに架かる石橋芋水車  
あたたかき十一月の廻り道

贄田俊之

虫時雨ふいに止みけりあとは闇  
木洩れ日を浴びて甲州葡萄狩  
木犀の香に足止まる曲がり角  
仏前によく磨かれし柿ひとつ  
悔しさにギシギシ鳴らす胡桃二個  
十月のコキアの色はコキア色  
正面に初雪の富士圏央道

都 冬 小 灯 渋 鶏 月  
 鳥 の 魚 台 滞 頭 島  
 の 午 を へ す 花 の  
 飛 後 く は 細 バ ッ ク ぱ り 路  
 交 浚 へ 坂 ミ ラ ー に 秋 の 地  
 ふ 漑 飛 道 ち ち 黒 ぱ ら と 黒 入 口 醉  
 中 船 び ゆ く 冬 の 鳴 く 雲 粒 芙 蓉  
 を は 傾 きの 鳥  
 曳 航 す

野口希代志

朝 秋 秋 白 厨 海 藤  
 の 空 高 桃 ま に の  
 日 に し を ま 向 実  
 の 波 サ 剥 で 向 の  
 あ 打 ス く 軋 墓 だ  
 た っ ペ や む 石 ら  
 る つ ン 爪 廊 秋 り  
 木 雲 ダ 跡 下 の 垂  
 道 や ー ひ と つ 月 ぬ  
 草 も 六 の 老 つ 坊 寺  
 み 本 紳 付 く け の  
 ぢ 木 士 坊 け 屋

貫井照子

萩原溪人

山城の森はもつこり秋の蛇  
秋冷の無人の駅に終列車  
コーヒーミルの心地よき音吾亦紅  
柳散る護岸工事のダンプカー  
白つぽく秋晴れゆるむ丸の内  
バス停に子を送る母花嫁菜  
街角を曲がる鼻歌梅擬

萩原久代

極暑なり車庫の自転車パンクして  
見舞ふたび思ふことあり秋深し  
渋柿を剥く包丁の早さかな  
虫食ひの榎植ぼとんと落ちにけり  
秋深む噴煙眺めつつ歩く  
幼子は踏んで泣き出す笑ひ茸  
鴟鳴けり公園ベンチ空きは無く

## ◇ 1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン5	丑久保 勲
	8日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	8日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン4	瀬島 孟
	9日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	26日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
2月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	大宮第2公園の梅園	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月のNHKは3月29日(金)に変更。

2月17日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR大宮駅・中央改札口を出て案内所前。吟行地は大宮公園・第2公園の梅園。句会場は武蔵浦和コミセン第1集会室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733  
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856